

油谷町戦没者追悼式



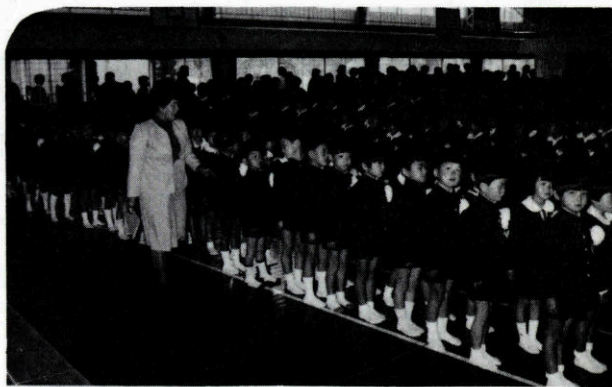
## ◀ おごそかに戦没者追悼式

4月22日、油谷勤労者体育センターで488柱の霊をお迎えしておごそかに式典が行われた。山口県知事代理ほかたくさんのご来賓、ご遺族の方々の出席のもとに、陸上自衛隊の演奏により、なごやかにそして厳しゅうくに意義ある行事を終えた。

4月8日、町内各小学校で入学式が行われた。今年の入学者は140人で、新入生たちはこれから始まる楽しい学校生活に小さな胸をふくらませながら喜びのスタートをきった。

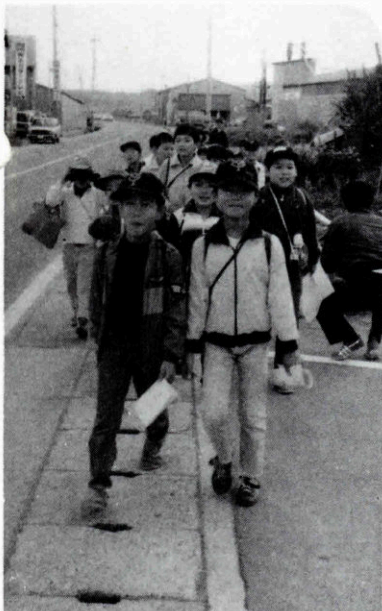
(写真は油谷小学校にて)

## ▼ きょうから一年生



体力作りの一環として、3月27日町教育委員会主催による歩こう大会が開かれた。この日は子どもから大人まで30人が参加し、中央公民館前から町指定文化財の木造阿弥陀如来立像、西光寺権ノ木巨樹群を経て伊上岬に至る約7kmのコースを青空の下全員楽しく歩いた。

## ◀ 足どりも軽やかに



# 油谷町の昔話

## 嶺尾の峠の眼洗い石

高村 十四巳

渡場から中畑を経て、後畑へ

えもありません。

越す古い道筋の、峠の頂上手前五〇m位の道の傍に、眼洗い石という大きな岩があります。この岩に水がたまる穴があります。降った雨水が溜まっていると思われ、この水で眼を洗うと眼の悪いのが癒るといわれておりました。

この峠を、嶺尾峠とも、仏石峠とも言い、嶺尾、仏石の地名も現在残っておりますが、昔々、如来様がこの地方に現われて、この眼洗い石の上に立って、常念坊という坊さんに経典をお授けになった岩だから、仏石というようになったと伝えられ、如来が鳥になって南の方へ飛び去り、その姿が見えなくなったところが、仏崎だと伝えられております。

そして、この水は一年中涸れることがないのも不思議なことですが、この水が一年中涸れないのは、津黄の龍宮と連らなっているからだ、という、言い伝

(油谷町の昔話二集より)

